

8/22

つくり育てる漁業 クロダイ稚魚放流

「つくり育てる漁業」の推進を図るため、漁業関係者らが漁港周辺の海岸でクロダイの稚魚の放流を行いました。

これは、漁業者や氷見漁業協同組合でつくる氷見市水産多面的機能発揮対策協議会が、豊かな海づくりの一環として毎年実施しているものです。今年はクロダイの他に、ヒラメの稚魚やクルマエビの稚エビの放流も行いました。

今回、放流した体長約5cmのクロダイの稚魚計6万8,000尾は、秋を迎える2カ月後には20cmほどにまで成長します。



8/22

氷見の幸「氷見牛」を味わおう！ 親子でお料理教室

地元の特産「氷見牛」を使った料理教室が開催され、市内の小学3年生～4年生の親子が参加し、おいしい氷見牛の料理を堪能しました。

今回は、イタリアンキッチンオーリーブの梶シェフが講師となり「氷見牛もも肉のポロネーゼ」と「トマトときゅうりの豆腐ディップ」の作り方を説明しました。子どもたちは真剣な眼差しで作り方を聴き、保護者はうなずいたり、メモを取ったりしながら料理のコツを学びました。その後、親子で楽しみながら料理づくりを体験！子どもたちは「帰ったら家族に作ってあげたい」「自分で料理をすると苦手な食べ物も食べてみたいと思った」と語ってくれました。

その他、梶シェフが作った夏バテ予防にも効くお肉の栄養分たっぷりのドライカレーやマーボー豆腐などさまざまな食べ方で氷見牛を味わいました。



9/1

防災週間 氷見市防災訓練

防災週間に合わせて、災害発生時における迅速かつ的確な防災活動の実施や防災意識の啓発を図るため、余川・碁石地区などを中心に氷見市防災訓練が行われました。

県西部に大雨、市内一部に局地的な集中豪雨が発生し、上余川地区で河川氾濫、山側では土砂災害発生のおそれがあることから市内全域に警戒レベル3「避難準備・高齢者等避難開始」を発令、余川・碁石地区に警戒レベル4「避難勧告」が発令されたという想定で訓練は実施されました。

碁石地区では防災行政無線が警戒レベルを伝えると同時に、要介護者や高齢者が避難を開始。早めに避難する大切さを感じながら、近所同士が声をかけ合い、避難所に移動しました。碁石公民館では水防訓練が行われ、約1, 1トンの土のう5つを設置し、河川氾濫に備えました。

また、参加者は担架だけが人を運ぶ体験をし「長時間・長距離は厳しい」などと、もしもの時に備えて意見交換を行ったり、アルファ米などの非常食も試食したりし、災害時に必要な情報を確認しました。



9/6

万が一に備え 消防団秋季消防訓練・防災航空隊連携訓練

消防団秋季消防訓練は、いきいき元気館周辺で行われ、市内の21分団が分列行進や一斉放水を披露し、防火や防災への決意を新たにしました。

これは、昭和13年9月6日の氷見町大火の惨事を忘れず、万が一の火災・災害に備え、消防団と消防本部が連携し、団結と士気を高め、消防技術の向上を図ることを目的に毎年実施しています。



上庄川ではポンプ車の一斉放水が、中央町の住宅地では延焼を想定した消火訓練が行われ、団員らは住宅密集地での火災の消火活動における動作確認を行いました。

その後、氷見漁港緑地公園で消防定例表彰が行われ、永年にわたり消防団活動に精励し、市民の安全・安心に尽力した団員が表彰されました。

また8日には、市消防署と県消防防災航空隊による防災ヘリコプターを使った林野火災時の連携訓練が行われました。

火災注意報発令下の山林に野焼きの火が飛火し延焼したという想定の下、署員と航空隊員がジェスチャーによる合図で相互に安全確認を行いつつ、消防ポンプ車から防災ヘリに搭載されたタンクへ迅速に給水し、飛び立った防災ヘリは千石池周辺で放水を行いました。



当日は、署員13人、航空隊員7人の他、地元の消防団女良分団員7人が参加。市内の消防団では、撮影した映像で研修を積み、万が一に備えます。



9/7

スポーツの秋！ ファミリーフットサルフェスティバル

ふれあいスポーツセンターでファミリーフットサルフェスティバルが開催され、市内の保育園・認定こども園の12園102人の年長児が元気に汗を流しました。



これは、園児が体を動かし楽しく交流しながら体力向上や健全育成を図ろうと、市と県サッカー協会が取り組んでいる活動です。

園児たちは6人でチームを組み、必死にボールを追いかけながら、保護者の温かい声援を受け、10分間の試合を走り切りました。シュートが決まるとみんなでハイタッチをして喜ぶ姿も。

当日は応援団「チアリーディングチーム パピーズ」によるダンス披露や、カターレ富山のマスコットキャラクター「ライカ」くんも応援にかけつけ、大会をより一層盛り上げました。



9/7

夏休みの研究の成果を発表 氷見市児童生徒科学作品展覧会

児童生徒科学作品展覧会が9月7日、8日の両日、教育文化センターで開催され、小学生39点、中学生46点の作品が展示されました。

7日には、金賞を受賞した児童・生徒14人と2グループの表彰式が開催され、鎌仲教育長は「これからも日々の興味・関心に働きかけ、科学的な見方や考え方を持ってほしい」と今後の期待を込め、あいさつをしました。また、杉守審査委員長は作品1点ずつの概要と講評などを説明しました。

金賞受賞作品の中でも特に優れていると認められた作品6点は、10月に開催される富山県科学展覧会に出品されます。



9/14

梶本学ヴ先生の 「キトキトまんがチャレンジ!!」

「キトキトまんがチャレンジ!!」が漁業文化交流センターで開催され、市内外の親子連れなどがプロのまんが家から描き方やその魅力を学びました。

講師は月刊コロコロコミックの「学級王ヤマザキ」や「コロケ！」などの作品で知られる梶本学ヴ先生。顔の表情は「眉毛」や「目の大きさ」で印象を大きく変えることができることを学んだ子どもたちは、思い思いのイラストを真剣な眼差しで、まるでまんが家になったように描きました。

その後、かまぼこの絵付け体験や、氷見市出身のまんが家藤子不二雄[㊤]先生の作品を展示している潮風ギャラリーも見学し、一日を通して、まんがと氷見の魅力に触れました。



9/15

22年ぶりにみこし巡行 阿尾地区秋季大祭

元号が「令和」となった今年、阿尾地区の秋季大祭では新時代を地元住民らと祝おうと22年ぶりにみこしが巡行しました。

阿尾地区は、大伴家持が「**英遠の浦に寄する白波 いや増しに 立ち**

しき寄せ来 東風をいたみかも(阿尾の浦に寄せる白波が、だんだん増してしきりに押し寄せてくる。東風が激しいからであろうか。)」と歌に詠んだ万葉集ゆかりの地。神社奉賛会は、大きなお祝い事があった時にみこしを出しており、今回は焼失した神社の社殿を再建した1997年以来となりました。

神社でお祓いを受けた後、「新時代に地域に住む人々が健康で安全に、幸多く過ごせることを願って練り歩こう！」と青年団らの約120人が黄金色に輝くみこしと一緒に、阿尾地区を元気よく巡行しました。

